

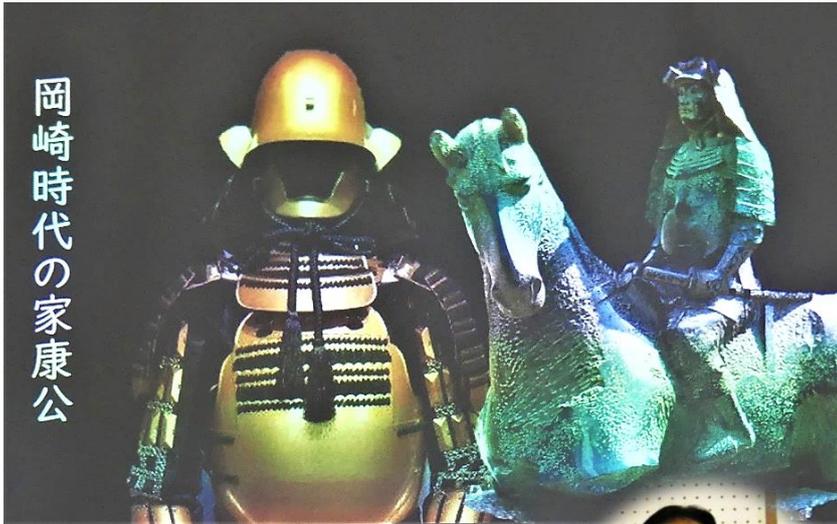
「岡崎時代の家康公」

天下人の土台は
岡崎で作られた

講師 市橋 章男 氏

1954年岡崎市生まれ。國學院大學で史学を専攻。新編岡崎市史調査員。教職員退職後、ふるさと岡崎にかかわる歴史・人物の著作活動を始める。2005年、岡崎長誉館で「おかざき塾歴史教室」を主宰開講。2017年、タニザワ大学研修センターで「岡崎ふるさと歴史講座」を開催。元二松学舎大学大学院研究員。全国歴史研究会特別会員。

普段から、丁寧に家康の話をしてと、時々頼まれますが、来年は大河ドラマが家康なので、NHKからも話を聞かれます。大河ドラマを見て(岡崎人として)誇りのようなものが起こるといいのですが。だから、NHKには、「八丁味噌」の古い仕込み桶を再利用した太鼓を使えと言ってるんです。しかし、大きすぎるので(直径約2メートル)…！岡崎でロケをとというのはこだわりすぎない方がいいですね。岡崎は発展してしまって、里山は現代的すぎて、ロケには向きません。三河弁は標準語の元でもありますから、ドラマの中で是非使ってくださいと書いてあります。



岡崎時代の家康公

写真⑤ 家康の「初陣具足」

(金箔甲冑『金溜塗具足』)

◆写真は、家康館にあるレプリカです。本物は久能山東照宮にあります。(重要文化財) 二枚胴具足で実用的に作られている、家康らしい物です。

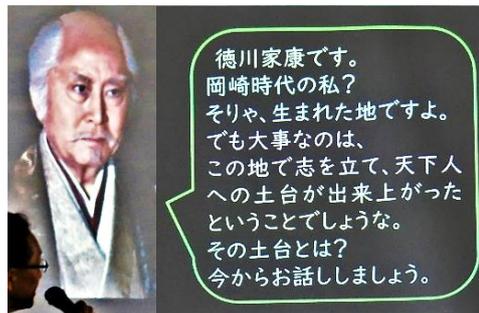


写真⑥ 松平元康像 (騎馬像)

◆岡崎城 二の丸跡のトイレの横にあります。19歳の家康(元康)が岡崎に戻って来た時の姿を表しています。



参考写真



徳川家康です。岡崎時代の私？ そりゃ、生まれた地ですよ。でも大事なのは、この地で志を立て、天下人への土台が出来上がったということでしょう。その土台とは？ 今からお話ししましょう。

◆この絵図は、曲輪などうまく描けています。「空堀」は石垣が全くありませんでした。家康の時は石垣をやってなかったんです。石垣を使ったのは、信長が作った安土城が最初です。

◆「本丸」も天守はありません。◆周辺を見ると、西の方は泥田です。

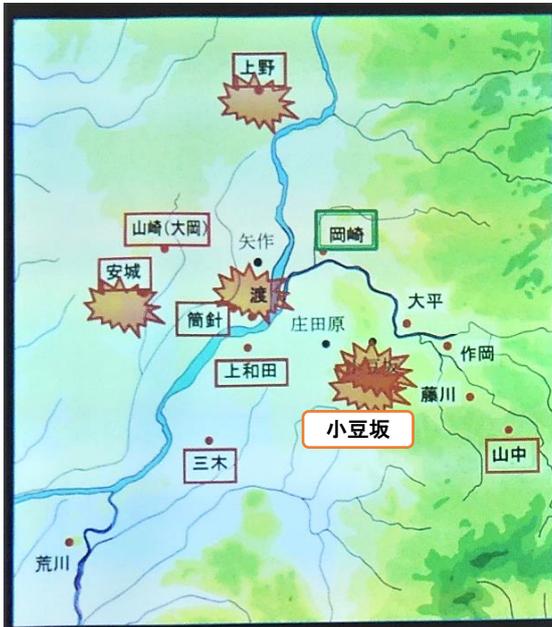
まず、生まれたころの岡崎は？



清康～家康の時代の岡崎城 (予想図)

安城(安祥)松平家が宗家

- ◆地域は、“川があって、街道があって”栄えます。この地域で、まず発展したのは乙川の上流です。秦梨の方ですね。足利時代はあちらの方に集まっていた。
- ◆松平氏が最初に攻めたのは、岡崎でなく安城(安祥)です。安祥城は、現在の安城市歴史博物館のところにありました。安祥城が松平家の本拠地の城だったんです。
- ◆しかし、織田氏の三河進攻で、安祥城は織田信秀にとられてしまいます。(1540年・天文9) このことは岡崎(などの)松平分家を動揺させました。そして、松平一族は分裂(織田方と今川方に分裂)していきます。



織田氏と今川氏の 熾烈な争いの中で 松平一族の分裂

矢作川以西が織田支配に

◆佐々木城の松平忠倫が織田方に通じました。(渡・筒針に砦を構える)

*佐々木城；上宮寺を含んだ一帯という(編者注)。

◆上野城は織田軍の攻撃で落城し、織田と通じていた酒井忠尚(松平の宿老であった)が城主になりました。

*上野城(上野上村城)；現 豊田市上郷町。

小豆坂の合戦

～織田氏と今川氏の直接対決～

◆広忠は、織田信秀の進攻を押しさえ、矢作川を越えてこ

ないようにするために、今川にバックアップを頼みました。
今川勢は、1542年(天文11)8月に、大兵を率いて生田原に軍を進め、織田信秀は安祥城を出て、渡から矢作川を渡って上和田に布陣しました。そして、両軍は小豆坂において激突したのです。(第一次)生田原は美合の旧日清紡のあたりにあります。生田城がありました。
◆小豆坂一帯には古戦場があちこちにありますが、現在は1箇所に集めて古戦場碑が立てられました。光が丘交差点の南東に建っています。

天文11年(1542)8月
第1次小豆坂の合戦

織田氏と今川氏の
本格的な合戦



◆第一次合戦の年の12月に、岡崎城で家康が生まれています。 **1542年12月誕生**
一族が分裂、織田と今川の大軍が戦うという、岡崎の大変なときに生まれたのです。

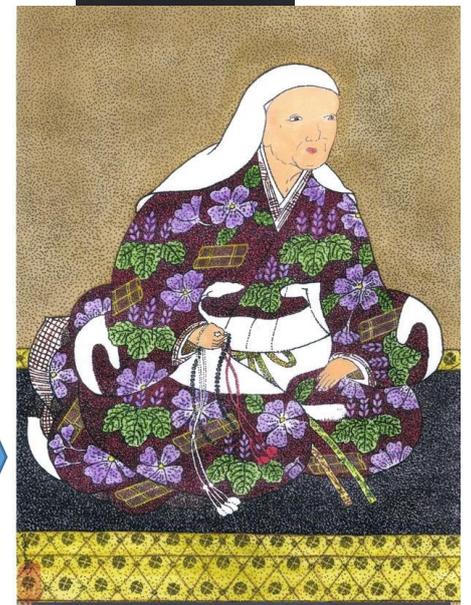
- ◆1543年(天文12)三木城主の松平信孝(清康の弟・広忠の叔父)が織田方に通じ、山崎城(安城市)に入る。(三木城；上三ツ木町)
- ◆同時期、上和田城は松平忠倫(織田方)が奪う。
- ◆山中城の松平重弘が織田方と通じる。
- ◆1547年(天文16)～ 家康；織田、今川で人質生活。
- ◆1548年(天文17)3月 第二次小豆坂の合戦。
- ◆1549年(天文18)松平広忠 死去。

◆この時代は、松平氏にとって、大変危険な時であったのです。それだけに、家康を大切にしなければいけないという気運が強く生まれていったのです。

◆松平の家臣は、忠義の強い武士であると言われますが、そんなことはありません。このように最初の頃は分裂していたのです。

◆家臣の忠義よりも、「家康のリーダーシップ」が家臣団の結束を強くしたのです。戦国最強と言われた「武田家臣団」も、信玄が死んでからどんどん離れていってしまいました。
三河武士も、最初はひどかったのですが、段々結束してくるのです。

家康の母は於大の方 (伝通院)



(復元模写/平林真一・画)

もとのキレイな色にして模写

小豆坂の戦いを経て、桶狭間の戦い

◆1560年(永禄3)に、桶狭間の戦いが行われました。

この戦いは、力の差がおおきく、織田(信長)が、簡単にひねつぶさずはすだった、と言われていますが、それは間違った見方です。

織田・今川は長い間五分に戦ってきていました。



東照社縁起絵巻「生誕の場面」(国重文/日光東照宮蔵)には面白い描写があった



臺目 魔除けの鎬矢 石川清兼 胞刀 酒井正親

広忠・於大・乳母・厩・産室・女官・臺目 (石川清兼)・胞刀 (酒井正親)

家康公の生誕 天文11年12月26日



厩に、黒と白の馬

●故事に倣い、生誕の場の近くに「厩」がある。
*キリスト、聖徳太子…

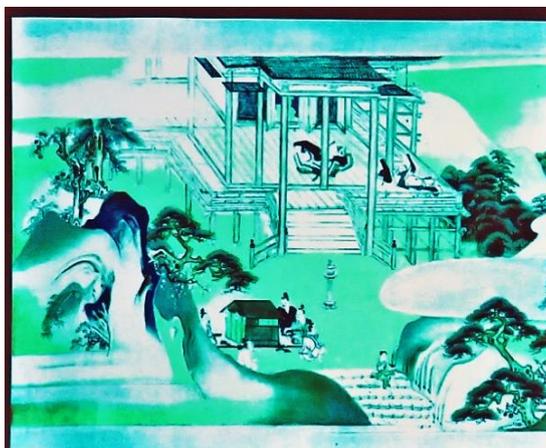
東照社縁起絵巻 巻一(日光東照宮蔵)

- 松平家中全体の喜び。 ●乳母から父の手に=嫡子は乳母の手で。 ●夫と妻は直接接しない=妻は次の間。
- 家臣たちは屋敷の中に入ることにはない。 ●臺目 (ひきめ) 鎬矢を放つ=筆頭家老・石川清兼。(魔除けの矢)
- 胞刀 (えなかたな) を持つ=筆頭家老・酒井政親。 → 胎盤・へその緒 と一緒に「えな塚」に 埋めたとされる。

◆この形は、江戸城の大奥の原型に見えます。

◆実物は日光東照宮にあり、見ることはできないが、家康館に精巧なレプリカがあるので是非見て下さい。

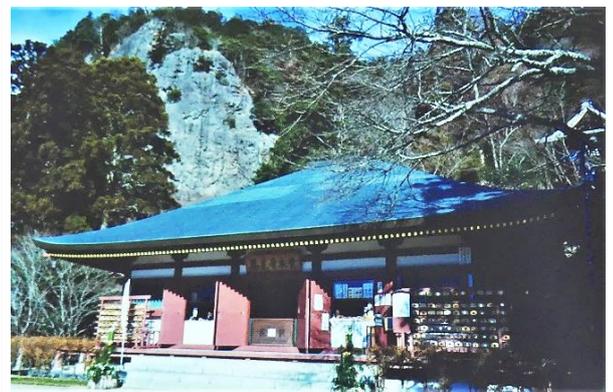
家康；1542年（天文11）12月26日・寅年・寅の刻（午後4時頃）生誕。



東照宮縁起絵巻 (徳川美術館)

北方鳳来寺峰の薬師に御祈願ありて。七日満願の夜薬師十二神將の寅神を授け給ふと見給ひしより。身重くならせ給ふなど。日光山の御縁起にも記されし事多し。

本堂と背後の鏡岩



◆松平広忠と於大の方がお世継ぎのできないことを憂い、一緒に鳳来寺峯薬師へ参籠し祈願したところ、間もなく於大の方が身ごもり、家康が生まれた。

鳳来寺東照宮；慶安元年、徳川家光が日光の東照宮に参詣した時、東照宮縁起に、「広忠公が、良い世継ぎを得たいと思われ、北の方（於大の方）とともに鳳来寺に参籠したところ、その効あって男児（のちの家康）を授かった」と記されてあるのに感銘をうたれ、鳳来山東照宮の建立を并願され、慶安4年4代將軍家綱の時代に完成した。



鳳来山東照宮の浦安の舞

家康公生誕伝承三題

その1. 消えた守護神の伝承（「鳳来寺縁起」より）



- ◆家康の生誕と時を同じくして、鳳来寺の薬師堂から、寺の本尊である薬師如来を守る十二神将のうち、寅年の神である真達羅大将の像が忽然と姿を消し、家康の死去とともに元の場所に現れたため、家康はこの真達羅大将の生まれ変わりであると伝えられています。
- ◆この伝承について山岡荘八は…「於大の方が侍女を呼び、“もうじき生まれるから、お前は鳳来寺に行き、男が生まれたら寅の神を隠せ”と命じました。侍女がそんな恐れ多いことはできないと言うと、“この世の守り神が二人いたら困るだろう。我が子がみまかったら元に戻せ”と諭したため、侍女は意図を察して言われる通りにした」と小説にしています。この侍女は、何歳まで生きたんでしょうかね。

その2. 竜神伝説—竜城神社

◆金の龍が立ち昇る

— 龍城神社社記より

この英雄児の生まれ出づるを待つが如く、城楼の上に雲を呼び風を招く金鱗の龍を、見たりと云う。

龍神伝説と「龍ヶ井」

- ◆一人の男児がこの岡崎城で誕生しました。すると、城の上に黒雲が渦巻き風を呼んで黄金の龍が現れたのです。その男児がのちに、初代征夷大将軍となる徳川家康だったということです。
- ◆岡崎城築城の際に、龍が現われ城の井戸から水を噴出させて神に注ぎ、昇天したという昇龍伝説、も社伝に残っています。この井戸は「龍の井」と名付けられました。



その3. 歴史（家譜）から消された異母弟… 家康と同じ日に生まれた弟

忠政 広忠 お久

影武者存在説??

家譜から消された異母兄弟

勘六と頼新

勘六 松平忠政

頼新 樵暗恵最

広忠寺の創建

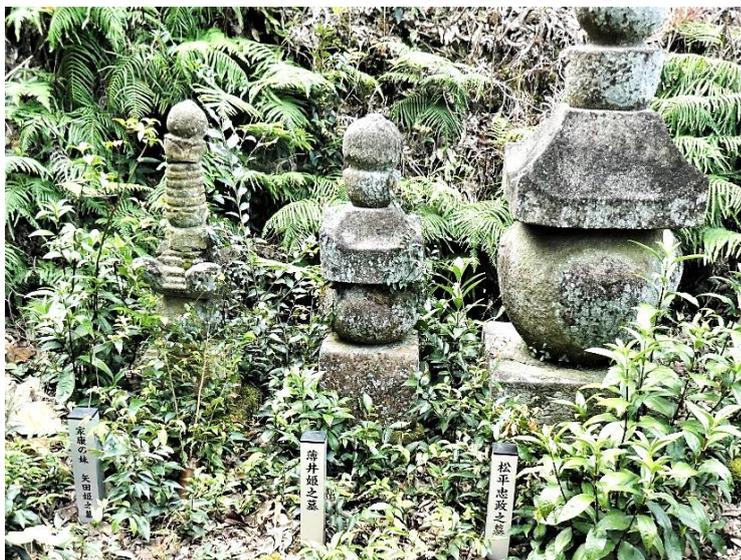
- ◆於大が嫁ぐ前に、広忠には側室がいました。大給松平家松平乗正の娘「お久の方」です。2人の子（家康の異母兄弟）がありました。
- ◆兄は「勘六」。弟が、家康と同じ日に生まれます。この子は、祖父乗正が「頼新（えいしん）」と名付けます。後のもめ事を避けるために、最初から法名をつけ、生まれた日から出家させたのです。
- ◆その後3人は城を出て、桑谷村に移り住みます。（お久は、化粧田として桑谷村に領地を与えられた）

◆家康が今川から岡崎に戻って来た時、酒井からこの話を聞いて桑谷村に行き、母子3人と対面しました。兄 勘六はすぐに家臣とし、名を松平忠政と改めました。酒井正親の与力となっています。

頼新は生まれたときから出家していたので、その場で父広忠の位牌を書き、“ここに寺を建てるから、父の位牌を守ってくれ”と頼みます。寺は「広忠寺」で、今もあります。位牌も残っています。裏書きに家康の名も書かれています。しかし、頼新は翌年亡くなってしまいます。

◆異母兄弟・頼新が、家康の影武者であった、という伝説もあります。頼新はすぐ死んでしまったので、そんなことはあり得ないですけど。

松平忠政の墓は、本宿の法蔵寺にもある。



家康の異母妹矢田姫 広忠の妹薄井姫 松平忠政

主な武将の年齢

家康公生誕の時…

- 武田信玄は 22歳
- 上杉謙信は 13歳
- 織田信長は 9歳
- 豊臣秀吉は 6歳



人質の少年時代は人間形成の時代

人質時代

竹千代は我慢強い、律義で物分りの良い子どもではなかった！



↑「正面向いた竹千代」と「走る竹千代」

「勝ち気」な性格と自己顕示欲

← 駿府城での放尿事件（御当家紀年録）

◆10歳の頃、義元に新年挨拶するために人が集まっている時、ヒソヒソ話が聞こえた。竹千代を見かけ“あの小せがれは誰だろう” “松平清康の孫ではないか”… これを耳にした竹千代は、立ち上がり、縁側まで行って立ち小便をした。

部下に無理難題、挙げ句の果てに暴力沙汰 鳥居元忠と「百舌鳥事件」（鳥居家譜）

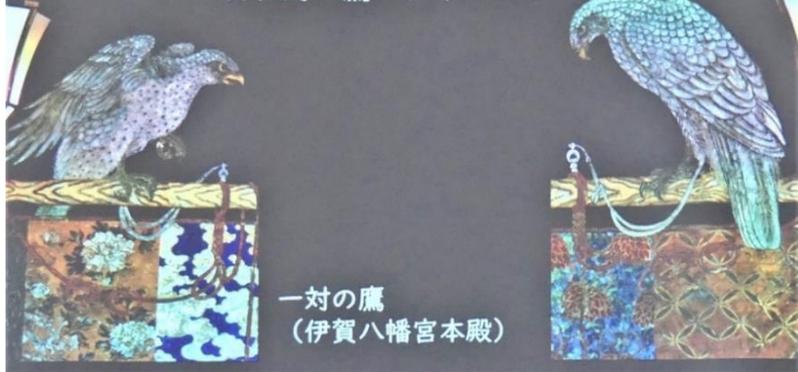
◆駿府での人質時代、近習の鳥居元忠（3歳年長）に、飼っていた百舌鳥を“鷹のようにせよ”と命じた。元忠は律義に承知したが、できるわけでもないのでそのままにしていたが、持ってこいと言われたので差し出したら飛んでいってしまった。竹千代は怒り元忠を足蹴にして乱暴した。

岡崎でそのことを聞いた元忠の父・鳥居忠吉は「それでこそ、この乱世を勝ち抜く大将の器」と褒めた。元忠には「よく我慢した。一生忠義を尽くせ」といい含めた。元忠は、関ヶ原の合戦の前哨戦でもあった伏見城の戦いで奮戦したが討ち死にした。

太守の御前で
天文廿年正月元日今川が館におは
しませしとき。かの家臣等義元が前
に列座して拜賀す。君いとけなくて
そが中におはしますをいづれもあや
しみ。いかなる人の子ならんといふに。
松平清康が孫なりといふ者あれど信
ずる者なし。其時君御座をたちて縁
先に立せられ。なにげなく便溺し給
ふに。自若として羞慚のさまおはし
ます。これにより衆人驚嘆せしと
ぞ。（紀年録）



百舌鳥を鷹のようにせよ



一對の鷹
（伊賀八幡宮本殿）

伊賀八幡宮は、1636年（寛永13）三代将軍家光が、家康の造営した御本殿に増築するかたちで、現在の権限造りの御社殿などを造営した。
 全国の八幡社では「鳩」が多く用いられるが、伊賀八幡宮の拝殿には家康公が好んだ「鷹」が描かれており、阿吽の対になっている。
 阿吽の対：仁王像、狛犬…。向かって右が阿像（口を開けている）、左が吽像が多いが、逆の場合もある。

高度な教育を受けた「人質!？」

◆少年期に、
 臨濟宗住持である
 太原雪斎より、
 南宋学・兵学など
 の教育を施される。

太原雪斎：臨濟宗の高僧。今川義元の軍師でもあり、当代きっての学者でもあった。



臨濟寺（静岡市葵区）

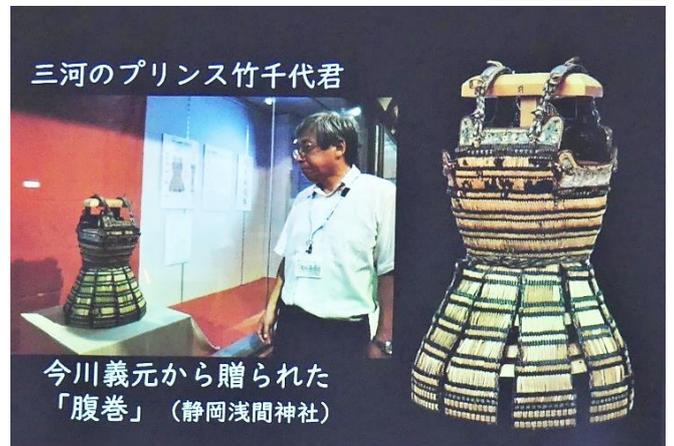
竹千代
 手習いの間
 太原雪斎
 儒教の教え



三河松平党の御曹司 …義元が「武將」としての待遇を

◆1554年（天文23）「摺甲の礼」
 （初めて甲冑をつける儀式＝跡目継承の儀式）
 の時に義元から「腹巻」を与えられた。
 腹巻は浅間神社に奉納。

松平の当主を
 継ぐ。



三河のプリンス竹千代君

今川義元から贈られた
 「腹巻」（静岡浅間神社）

◆翌年、浅間神社拝殿で元服。
 松平次郎三郎元信 と改名。

信長と同盟を結んで、東西に勢力を伸ばした。
 東＝家康 西＝信長

天下人への土台造り—岡崎時代

- ・厭離穢土、欣求浄土の旗印…乱世に戦う意義
- ・信長との同盟…愛知から三英傑誕生の原点
- ・三河一向一揆…家臣との強い絆と結束
- ・戦国大名徳川家康の誕生（25歳）



浅間神社大拝殿
 (静岡市葵区)

ありがとうございました。

作左の会

検索



(記)竹内喜則